

—若手技術者のコーナー—

私の歴史 ～技術者編～

1. はじめに

私が中学生の頃、当時放送されていたドキュメンタリー番組において大規模公共事業が取り上げられているのを見ていた。技術者のプロジェクトに対する熱い情熱を見た私は「このような歴史的工事に携わってみたい。」という思いを抱くようになったのを覚えている。

また、いつの時代も公共工事の需要は一定数以上あることと、土木技術者の不足が懸念される状況である中、技術者になれば、職にありついて食べるには困らないだろうと漠然と考えていた。

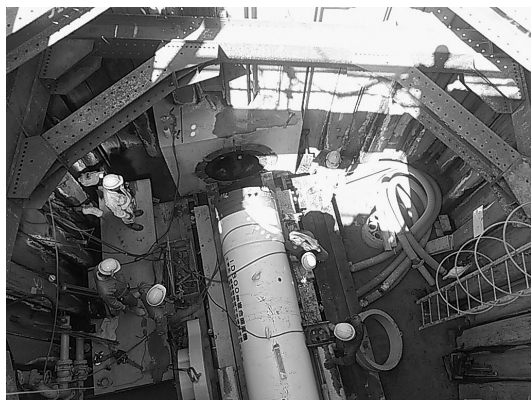
これらの思惑もあって、私は土木工学科へ進学し、紆余曲折を経て、無事に県の土木職員として雇っていただけることとなった。

2. 技術者の仕事

1) 下水道管路埋設工事

入庁後、私をはじめ配属されたのは下水道管路施設の建設工事を担当する部署であった。早速見慣れない額の工事を担当させていただくことになり戸惑うばかりであったが、上司の方や先輩方をはじめ請負業者の方などから丁寧に指導をいただきながら、無事工事を完成させることができた。

ちなみに、右も左もわからず工事を完成させるのに多くの労力を費やした私は、いつのまにか「歴史的工事に携わってみたい」ではなく、「大規模工事に携わったら大変だなあ」と感じるようになっていた。



立坑内の様子

2) 公共下水道

次に配属されたのは、おこがましくも市町の下水道事業担当に対して指導を行うという部署であった。知識も経験も浅い私は、連日とめどなくかかってくる電話への対応に苦慮していた。

担当する業務内容は補助金のとりまとめ等、事務的な要素が強く処理するのに時間を要するため、もっと技術的な仕事がしたいと思うこともあったが、今振り返ると県内で進められている下水道事業全体を把握することができ、仕事の知識の幅を広げることができたと感じている。



職場にて

3) 海外事業

入庁当時は、まさか仕事で海外に出張することになるとは思いもしなかった。海外へ行ったこともなく、英語をまともに話すことができない私が、海外への技術協力プロジェクトに関わることになり、2ヵ月の間にベトナム、中国と派遣されたのは最近の話である。

先方から見れば私は滋賀県の専門家として扱われるため、荷が重い業務ではあるが、土木技術職員として非常に貴重な経験を得ることができると確信している。

3. おわりに

これまで、決して高い志をもって仕事に取り組んでこられたわけではないが、継続して取り組んでいく中でふと自分の成長に気づくこともあった。このふとした瞬間を楽しみにこれからも仕事を進めていければと考えている。

(滋賀県 琵琶湖環境部 下水道課 企画係 北川 聡)